

言語活動の設定

1 物語文の系統（傍線部は、『お手紙』に関わる内容）

言語活動（例）	表現技法	主題	人物	視点	作品の構造	
自由読書 劇 音読発表会 読み聞かせ	地の文 繰り返し 五感	会話文 好きなところ 題名 作者	登場人物 場面の様子 会話文 行動描写	語り手の言葉 地の文 語り手の位置	登場人物、出 来事 場面、順序	一学年
紙芝居 音読劇 ペーパーサート 読書カード	短文 体言止め	自分の経験 読者としての 感想	中心人物 対人物 周辺人物		あらすじ	二学年
心情曲線図 感想交流 物語を書く	心内語 擬態語 擬声語 擬人法	自分だったら	人物像 心情 心情変化 きっかけ	立場による違い	中心場面 伏線（しかけ）	三学年
日記 本の帯 読書交流会 映画	情景描写 倒置法 呼称表現 記号の効果	読後感		視点 視点人物 対象人物 視点の転換	場面の対比 時代背景 起承転結	四学年
ポップ ポスター 作者研究 パンフレット	方言 共通語	主題 山場や結末 の意味	登場人物の 相互関係	一人称視点 三人称視点	設定・展開・ 山場・結末 額縁構造	五学年
朗読	対比	題名の意味 象徴 複数の観点 から主題に 迫る	登場人物の 役割			六学年

上記の表は、白井が物語文を指導する際の「知識・技能」や「見方」となる系統です。便宜上一学年ごとに区切っていますが、児童の実態や扱う教材によって学年の入れ替えがあります。また、既習の内容をくり返し発揮できるように仕組むことで、習得・活用のサイクルを回すことができます。

2 映画化という言語活動

児童の活動としては、「劇化」と近いものになります。映画を撮るとなると、ざっくり次のような過程をたどります。

- ①【事前準備】企画を具体化して脚本にする。人材や機材を集め、それぞれの準備を行う。
- ②【撮影】シーンごとに撮影する。
- ③【仕上げ】音響と視覚を足し、膨大な撮影データを編集作業でつなげる。

この過程の中に、国語科としての学びを得る場面は様々にあります。例えばオリジナルの脚本を書くなら、物語の構成を考える力が身に付きます。より良い演技を求めて撮影するならば、場面の様子を想像したり、登場人物の人物像を理解したりする力が求められます。カメラマンは視点人物を表し、編集作業は推敲の効果があります。

今回は2年生での実践のため、指導事項と関係性が薄い作業は割愛したり、指導者が担ったりしています。高学年や或いは中学生などには、脚本から編集まで求めても面白いかもしれません。